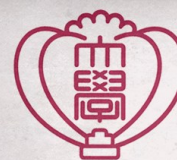


KPU NEWS



薬学の未来をつくる
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 184 Jan. 2016

新年のご挨拶

“自覚を持って 課題に取り組もう”

理事長 武田 禮二



新年明けましておめでとうございます。

皆様方には新たな決意のもと、新しい年を迎えられた事と思います。

日本の景気はアベノミクス効果が今一つ経済活性に繋がらず、また、オリンピック効果も国立競技場の建設費や五輪エンブレム問題等で水を差されました。その上、ギリシャ問題や中国経済の減速等の要因で景気は足踏み状態が続いています。そんな中で日本国民の多くに感動を与えたラグビーのワールドカップイングランド大会での日本チームの大活躍が明るいニュースとして挙げられます。全選手が一丸となって強豪を相手に五分で渡り合い、準々決勝には進めませんでした。十二分に力を発揮しました。その裏ではエディ・ジョーンズヘッドコーチの指導のもと、各選手が自覚を持って血のにじむような練習を繰り返し、また、筋肉トレーニング等で体質改善に取り組み外国人選手に劣らない体力作りに励んだそうです。2019年の日本で

のワールドカップ開催が楽しみになって来ました。

本学では、ここ10数年に亘って6年制薬学教育に対応した教育・研究環境の整備として、愛学館、臨床薬学教育研究センター、躬行館、バイオサイエンス研究センターおよび南風館等を建設してきました。また、創立130周年記念事業の1つとして、建設を進めてまいりました新体育館兼中央講堂（仮称）が昨年12月に竣工し、館名を“創立130周年記念館”と命名しました。この記念館の竣工で学内の大きな工事は一応終わりました。この期間中、皆様方には大変ご迷惑をお掛けしました。

本学は、上述のようなハード面の整備を進めると共にソフト面の取り組みとして第1期、第2期中期計画を策定し、ナンバー1の薬学を目指して各種課題に取り組んできました。特に初年次教育の充実や国家試験対策等に教職員が知恵を絞って、全力を挙げて対応してきました。しかし、残念ながら昨年も国家試験の合

CONTENTS

■ 特集

- 海外短期留学奨学生制度が始まりました
-フライブルク大学に留学して- 4

■ ご挨拶

- 新年のご挨拶 理事長 武田 禮二 1
年頭のご挨拶 学長 乾 賢一 2
新任のご挨拶 3

■ コラム

- 卒業生からのメッセージ 16
学生相談室だより 24

■ お知らせ

- クラブだより 15
お知らせ 15/26
第101回薬剤師国家試験 16
Library News 17
2015年度後期試験等日程 22
教育後援会からのお知らせ 23
第68回世界保健総会に参加して 25
国際薬学生連盟主催の世界会議に参加して 25
京薬会だより 27

■ イベント

- 「4大学連携公開研究会」開催 3
夏の科学実験会を開催しました！ 11
第2回卒業生・在学生交流会を開催しました！ 12
2015年度京薬祭を終えて 13
2015年11月にオープンキャンパスを開催しました 17
2015年度 防災（避難）訓練を実施しました 18
第21回京都薬科大学公開講座開催 20

■ 報告

- ミシシッピ大学メディカルセンターでの研究留学生生活 8
ブリティッシュコロンビア大学での研究留学生生活 9
海外留学報告 10
大学院トピックス 14
2016年度推薦入学試験結果 17
創立130周年記念館の施設概要 19
京都市山科区役所と地域連携に関する協定を締結 20
2015年度国際学術交流協定締結状況 21
受賞・掲載 26
京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 28

格率は、低下しました。まだ解決しなければならない課題も残っていますが、最後は学生諸君自身が自覚して、自主的に勉学に取り組むことが肝要です。

医療現場で活躍するためにも、特に病院や薬局等で調剤の仕事に従事する場合は国家試験に合格し、薬剤師の資格を取得する事が絶対条件になります。また、病院や薬局等に就職が内定していても、資格が取れないことは社会に対しての責任を果たしていないことになります。皆さんを必要としている多くの患者さんのためにも本学の学生は自覚と責任を持って教育・研究に取り組み、ファーマシスト・サイエンティストとして巣立って行ってほしいと願っています。

今一度、本学の建学の精神、“愛学躬行”を思い出

し、言ったことはやり遂げる即ち有言実行を実践し、ファーマシスト・サイエンティストとして国家試験の全員合格（1年次生から6年次生）を目指してください。

第2期中期計画も今年が最終年度となりました。進捗状況もほぼ60～100%で推移し、見直し課題を除いて今年度中に達成するように推進します。また、2017年度から5年間の第3次中期計画の策定に取り掛かります。

本年も皆様方のご協力の下、各種課題を進めていきますのでご協力をお願いします。

本年も皆様方のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶といたします。



年頭のご挨拶

～6年制薬学の

責任とプライド～

学長 乾 賢一

新年あけましておめでとうございます。皆様それぞれに夢と希望を胸に抱いて、新しい年をお迎えになったことと存じます。私は本学の学長を拝命して早6年、正に光陰矢の如しという心境であります。この間に賜りました皆様のご協力、ご支援に心から感謝申し上げます。

2006年4月にスタートした薬学6年制は、今年で10年が過ぎ、卒業生も第5期生を社会に送り出すことになります。医薬分業の進展や医療の高度化・多様化に対応するために、質の高い薬剤師の養成を目指した歴史的な教育改革であります。薬学関係者の弛まぬ努力に拠って、概ね着実に進んでいると申せましょう。昨年4月から改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムが実施されていますが、「薬剤師として求められる基本的な10の資質」が設定されるなど、学習成果基盤型教育に力点が置かれています。医学教育の改革は、安全・安心の医療を求める世論に応えるため、欧米の医学教育を参考にしながらモデル・コアカリキュラムを導入するなど、薬学よりも約10年先行して始まりました。しかし、教育年限の延長や「モノ」中心の薬学から「ヒト」を指向した薬学への変革など、薬学の教育改革は医学とは異なる次元の改革でもあり、一層厳しさを伴いました。

このような流れの中で、医療現場の薬剤師の業務内容も大きく変わってきました。狭義の調剤だけではなく、病棟における薬品管理、患者の服薬指導、医師の処方支援、在宅医療への参画など、薬剤師の業務に広がりが増してきました。一方、政府の骨太方針2015には、薬価・調剤等の診療報酬及び医薬品等に係る改革として、かかりつけ薬局推進のため薬局全体の改革についての検討や、患者本位の医薬分業の実現に向けた検討が進められています。このように医療環

境が大きく変化する中で、最近の薬剤師関連の学会や学術集会は活況を呈しています。例えば、第25回日本医療薬学会年会在「医療薬学の進歩と未来 ～次の四半世紀に向けて～」をメインテーマとして昨年11月に横浜で開催されましたが、有料参加者が約9,300人、公募シンポジウム43テーマ、一般演題は約1,700題と大盛況でありました。発表内容は多岐に亘り、質の高い発表が多数あり、また質疑応答も活発であるなど、「サイエンスとしての医療薬学」が着実に進展していることが伺えました。会員数は既に一昨年末で1万人を超えており、会員の多くは病院薬剤師であります。大学教員や学生にとりましても重要な学会となつてあります。

翻って本学の6年制薬学の取り組みを眺めてみると、本学は薬学の未来を拓くために他大学に先がけて、研究能力を有する薬剤師すなわちファーマシスト・サイエンティストの育成を掲げて、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた教育を実践しています。また、6年制薬学部の上に立つ大学院博士課程（4年制）は、将来の指導者養成、すなわち薬剤師免許を持った薬学博士を育成するために極めて重要と位置づけています。博士課程学生には、分野（研究室）の垣根を越えた研究指導を奨励し、リサーチ・アシスタント制度による経済的支援、短期海外留学支援（約6ヶ月）など特徴ある支援を行っています。また、若手教員（准教授以下）に対しては、科学振興基金による研究助成、海外留学の奨励、海外の学会発表参加の支援などを行っています。このように、本学は単科大学の特徴、強みをフルに活かしながら、国立大学薬学部を超える6年制薬学のモデル校を目指して力強く進んでいます。その上で、今、本学に求められるもの、それは「6年制薬学に対する

責任とプライド」を持つことであります。私は、本学のすべての構成員、すなわち教員、事務職員そして学生にこれを強く求めたいと思います。それによって、掲げてきた「ナンバーワンの薬学教育と研究」、「薬

剤師国家試験の全員合格」という目標の実現に、限りなく近づくと信じています。

皆様のご多幸、ご活躍をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶



共同利用機器センター

こうき

准教授 長谷川 功紀

平成27年10月1日付で共同利用機器センターの准教授に着任いたしました。私は姫路工業大学工学部応用化学科を卒後、大阪大学理科学研究科化学専攻で修飾ペプチドの合成法を研究し博士号を取得しました。次に自分の技術を医療応用したいと夢見たのですが医学知識の不足を痛感し、大阪大学歯学部に入りました。在学中に縁あって理化学研究所で研究する機会を得て、ペプチドに放射標識する研究に着

手いたしました。卒後、理研の研究員に採用されペプチド等を放射性薬剤化する研究を行い、結果、自分で調製した薬剤を被験者に投与し癌を可視化できたことで夢の一部が叶いました。その後、熊本大学医学部機能病理学分野で助教として採用され手術検体から切片を作成、合成した薬剤で標的細胞を染色する研究を約3年半行いました。そして今に至ります。

上記のように自分は夢を追いかけてきました。学生の皆さんにもぜひ何か夢を抱いて欲しいと思います。そして実現に向けて行動できる力を身に付けるため、私のこれまでの経験がその一助になればと思います。ただ私個人の力だけでは微力です。そこで職員をはじめ関係者皆様の力もお借りできればと思っています。何卒よろしくお願い申し上げます。

2015年度 京都4大学連携研究支援費による共同研究 公開研究会

「近代化と地域社会の変容 -京都地域と丹後地域を事例に-」開催

Event

一般教育分野 教授 鈴木 栄樹

11月7日（土）の午後1時から6時にかけて、「2015年度 京都4大学連携研究支援費による共同研究 公開研究会」を開催しました。テーマは、「近代化と地域社会の変容 -京都地域と丹後地域を事例に-」というものです。

本研究は、京都薬科大学ほか京都府立大学・京都工芸繊維大学・京都府立医科大学の4大学が、相乗的な教育・研究成果や学生への魅力発信に繋げていくために、教員間の共同研究を支援することにより、教員間交流の促進や研究の質の向上を図り、研究成果の地域還元等を目指すものです。今回、ヘルスサイエンス以外の研究分野として本研究に支援費が交付されました。

当日の参加者は20名ほどにとどまりましたが、活発な質疑が行われ、今後の研究にとって有意義なひと時となりました。以下、研究会のプログラムを掲げておきます。

【プログラム】

鈴木 栄樹氏（京都薬科大学 教授）＊共同研究代表者

「幕末京都の「賑わい策」 -鴨川浚え・四条大橋新造・湖北通船路開削」

小野 芳朗氏（京都工芸繊維大学大学院 教授）

「近代御所用水の防火と水利 -京都盆地の水は誰のものか」

中川 理氏（京都工芸繊維大学大学院 教授）＊共同研究者

「京都と土木技師 -京都市と舞鶴に見る技師の役割」

坂根 嘉弘氏（広島修道大学 教授）

「舞鶴軍港と地域社会の変容」

飯塚 一幸氏（大阪大学大学院 教授）

「「裏日本」化のなかの宮津」

小林 啓治氏（京都府立大学大学院 教授）＊共同研究者

「役場文書からみた戦時体制 -丹後地域の事例から」

海外短期留学奨学生制度が始まりました

－ フライブルク大学に留学して －

前号の特集では、「海外短期留学奨学生制度が始まりました」として、アメリカの大西洋岸のマサチューセッツ州にあるMassachusetts College of Pharmacy and Health Sciences (MCPHS大学) ボストン校およびウースター校への11名の学生たちの短期留学について紹介しました。本号では、同名のタイトルのもと、もう1つの短期留学先であるドイツ南部のフライブルク大学への留学をとりあげてみました。

すでに前号で記しましたように、MCPHS大学への留学生派遣は、本年度が初めてでしたが、ドイツについては、すでに2000年度以来、桑形広司准教授によって実施されていたものを位置づけなおしたものです。本年度は、21名の留学生が、桑形准教授のかつての留学先でもあるフライブルク大学へ送り出されました。なお、両大学への短期留学生派遣プログラムについては、前号を参照していただければ幸いです。

引率教員としては、ひきつづき桑形准教授があたり、またはじめての事務職員からの同行者として、学生課（国際交流推進室 兼務）の北田彩さんがドイツにわたりました。以下、これら引率職員2名と3名の留学生から報告記事をいただくことができました。寄稿していただいた方々にお礼を申し上げます。みなさんの記事を読ませていただくことにより、短期間ながら視野を大きく広げるきっかけともなった有意義な留学であったことが窺えます。来年度以降も、積極的な応募者を期待する次第です。

KPU_{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

■ ドイツ語担当准教授、日本フライブルク・アルムニ会会員 桑形 広司

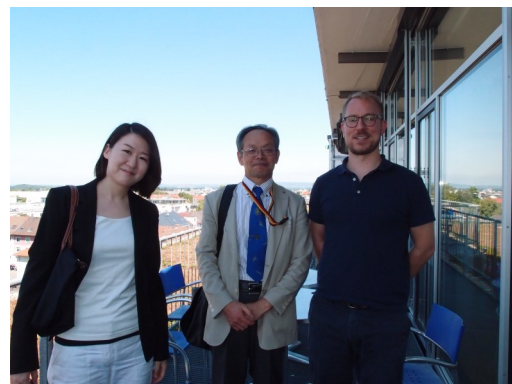
本年度もフライブルク大学主催の「日本人学生のためのサマープログラム」が8月5日から28日までのおよそ1ヶ月にわたり開催された。フライブルク大学はドイツ南西部のフライブルク市に位置し、1457年創立以来、数多くの優れた研究者、19人のノーベル賞受賞者を輩出する伝統校である。

2000年の初参加以来本年度で15回目を迎えたフライブルク大学の日本人向け特別コースであるが、一昨年度より本学の公認海外研修となり、一定の条件を満たした受講者には海外語学研修の単位が認定されるようになった。本年度から更に一歩進んで、参加者全員が大学より補助を受ける制度が確立した。フライブルク大学からも幾多の特典が受けられるコース参加者であるが、本学の場合、授業料と学生寮費を本学が全額負担するという他に例を見ない極めて充実した海外語学研修に格上げされた。この制度を受けて本年度は21名の学生諸君が8月にフライブルクへ向けて渡航した。

一昨年度より大きく変貌した短期集中語学講座だが、運営組織の改組に伴い長年国際局が運営してきた日本人コースも国際コースと同様、フライブルク大学の語学教育センターが統括することになった。中央講義棟内に参加者専用のサポートルームが用意され、主催者側とのコンタクト、また世界中の参加者同士の交流が図れるよう配慮されている。ドイツ滞在中に問題が発生した場合には昼夜を問わず現地

スタッフが対応するサポート体制は維持され、海外渡航未経験者でも安心して滞在できる様々な心遣いは従来通りである。

本学の参加者のために、特別プログラムを用意していただいているが、今年度もフライブルク大学医学部附属病院の院内薬局の見学会が実施された。ドイツ人スタッフの案内で、本学の参加者全員がドイツの医療現場を見学する機会を得た。



国際局サマーコース責任者 ティッシャー氏と

今回の日本人学生のためのサマープログラムに参加した2年次生の代表に「異文化体験」というテーマでドイツでの体験や思い出を投稿してもらった。ドイツでの語学研修や学生生活に興味を持つ諸君には是非とも次の夏休みにチャレンジし、来年度の異文化体験を報告してほしい。

教室での授業は午前中で終了、午後には連日楽しいレクリエーションプログラムが用意されている。このレクリエーションプログラムは午前中に習ったドイツ語を使ってみる絶好の機会だ。また週末には州内の都市、フランスやスイスへの日帰りバス旅行が予定されている。それにオプションとしてドイツで最も有名な観光地ノイシュヴァンシュタイン城へのバス旅行もある。車窓に広がる美しい南ドイツの風景はきっと旅人の心を魅了するだろう。受講料は580ユーロ、宿泊は学生寮で寮費が300ユーロ（2015年実績）は大学が支給だ。

なお2016年度からフライブルク大学で開催される短期集中語学講座は全て「フライブルク大学SLI（語学教育センター）夏季・冬季大学」と名称が変わるが、中身や運営方法は従来通りである。

後になったが、長年にわたり多くの参加者を派遣している本学に対して敬意を表すため、本年度の参加者と次年度以降参加を希望する学生諸君に向けてメッセージがフライブルク大学語学教育センターの夏季大学の責任者の2人から届けられたので、日本語訳とともに紹介したい。

【フライブルク大学 夏季大学責任者からのメッセージ】

～ドイツ語原文～

Liebe Studierende der Pharmazeutischen Universität Kyoto,

wir hoffen, es hat denen unter Ihnen, die wir 2015 in Freiburg begrüßen durften, bei uns gefallen. Seit über 100 Jahren kommen Studierende aus aller Welt nach Freiburg, um ihre Deutschkenntnisse zu verbessern und das Land und seine Kultur kennen zu lernen. Damit tragen sie zur offenen und jungen Atmosphäre der charmanten Universitätsstadt am Rand des Schwarzwalds bei, die eine der schönsten Städte Deutschlands ist.

Wir freuen uns sehr darauf, auch 2016 die Studierenden der Pharmazeutischen Universität Kyoto in Freiburg willkommen zu heißen.

Herzliche Grüße nach Kyoto senden

Astrid Nothen und Dorothea Rösch
Leiterinnen der Sommer-Universität im August

～日本語訳～

京都薬科大学に学ぶ皆様へ

2015年フライブルクにてご挨拶申し上げました皆さんには、わがフライブルクの町がお気に召したことだろうと願っています。今から100年以上も前の昔から世界各地より学生の皆さんがフライブルクに集まり、ドイツ語の知識の向上やドイツやその文化を学ぼうと努めてまいりました。この方々のおかげでシュヴァルツヴァルト（「黒い森」の意味）の端に位置し、ドイツで最も美しい町のひとつに数えられるこの魅力あふれる大学町はいつも開放的、若々しい雰囲気を醸し出し続けています。

私たちは2016年も京都薬科大学の皆さんをフライブルクにて歓迎できますことをとても楽しみにいたしております。

京都へ向けて心よりご挨拶をお届け申し上げます。

アストリート・ノーテンならびにドロテア・レッシュ



本学図書館前にて
左からノーテン女史、筆者、
ティッシャー氏、レッシュ女史

■ 国際交流推進室 北田 彩

今回初めて事務職員がフライブルクに派遣されたということで、大学周辺の環境や授業の雰囲気等を実際に見て確認することができ、次年度以降このサマープログラムに参加する学生に対して事前に提供できる情報を多く得られたことが今回の出張の成果かと思います。

授業はレベル別にクラス分けされており、私が参加した初級レベルのクラスは日本人学生のみで、学生にたくさん話させる形式の授業でした。学生も楽しみながら積極的に参加しており、クラスの雰囲気はとても良かったように思います。また、上級レベルのクラスになると日本人以外の学生も多数おり、より国際的な雰囲気の中でドイツ語を学ぶことができたと参加した学生から伺いました。

学生は授業やフライブルク大学が企画するアクティビティに参加する以外にも、週末にドイツ国内外へ旅行に行く計画を一から自分たちで立てる等、何でも積極的にチャレンジする姿勢が見られ、とても感心させられました。

一方で、外国人ルームメイトとのコミュニケーションに苦労していると話していた学生もいましたが、こういった経験は海外留学に行ったからこそできたことであり、この悩み、考えた経験は将来ファーマシスト・サイエンティストとして世界で活

躍するための大きな力になるのではないかと思います。

このプログラムに参加した学生たちには、今回の留学で経験したことを糧に、今後の大学での学びや研究活動をより一層充実したものにしていくことを期待しています。



フライブルク大学校舎



大学病院薬局内を見学

■ 2年次生 大塚 彩加

この夏、私は消極的な自分を卒業したい、視野を広げたいという思いから、フライブルク大学に短期留学させて頂きました。ドイツ語の授業だけでなく、薬局見学やベルリンへの旅を通して、得られたものがたくさんありました。

ドイツ語の授業は、全てドイツ語で行われ、初めは授業についていくのが大変でしたが、徐々にドイツ語を聞き取り、話すことができ、ルームメイトとの会話が新鮮でした。

薬局見学では、子供の患者のために薬の飲みやすさまで考え、工夫していることを知り、驚きました。日本よりも設備が充実していて、かつ、ドイツ

の薬剤師の方の話を聞き、刺激を受けました。専門的なドイツ語を理解して、ドイツの薬剤師の方と直接ディスカッションしてみたいと感じました。

さらに、授業のない午後や週末には、ドイツのいろんなところに出かけました。特に印象に残ったのは、週末に友達と夜行バスで行ったベルリンです。異国の地で自分たちだけで行動でき、そしてドイツの歴史や文化を実際に目にすることができ、とても感激でした。

ドイツで過ごした日々は、私にとって宝物です。この経験をこれからの大学生活に生かし、また、英語だけでなく、ドイツ語にも力を入れたいです。留学に携わって下さった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



ベルリンのブランデンブルク門



フライブルクの大聖堂広場

■ 2年次生 黒澤 まどか

この留学の魅力の1つはドイツ語の授業だと思います。授業中、先生はドイツ語しか話しません。生徒が理解できなかつたら、ジェスチャーや絵を駆使して丁寧に説明してくれます。また、日本では言語を学ぶ時文法から始まる事が多いのですが、簡単な日常会話の「音」から授業が始まりました。実際にフライブルクの街に出て道を尋ねたり、市場で買い物をしたりしました。日本ではこういう授業はなかなか受ける事がないのでとても新鮮でした。「音」中心のドイツ語の授業のおかげでドイツ語を「音」から理解し、聞き取り能力が上がったと思います。



マルティン門

もう1つの魅力は自由行動の多さだと思います。授業が昼で終わるのでフライブルクの街を観光したり、湖に行ったり、休日は国内のノイシュヴァンシュタイン城、フランスのアルザス、スイスのバーゼルといった観光名所に行くことが出来ました。フライブルクの街の観光では博物館や美術館に行ったり、街の中心であるミュンスター聖堂に登って街の景色を眺めたり、アイスやフライブルクのソーセージを食べたり、自由に行動できました。

このドイツ留学は楽しくドイツ語を学べ、その上旅行気分も味わえ、素晴らしい体験をさせてくれたと思います。



おなじみのドイツの焼きソーセージ

■ 2年次生 久本 真琴

ある2つの目標を心に留めながら、1ヶ月間のフライブルク大学のサマープログラムに参加して、ドイツで私が得たものは、日本でも必ず役立つ広い視野と自信でした。

私が意識していた1つ目の目標は、とにかくドイツ語を使うことです。フライブルク大学での授業は、日本で学んだことの復習と、日常会話をリスニングとスピーキングを繰り返し練習して習得することが中心でした。そのため、その日覚えたことを、その日のうちに街のお店や駅ですぐに使うことができます。どんなに小さい街でもほぼ必ず教会か時計台があることや、山肌のあちこちにワイン用のぶどう畑があること、かわいなお土産屋さんの場所など、覚えたてのドイツ語で尋ねてみると、バスで相席した人やルームメイトが簡単なドイツ語に英語も織り交ぜて教えてくれたことがたくさんありました。

そしてもう1つは、景色を目に焼き付けること。空と平野が地平線でスパンと境界線が引かれている風



ノイシュヴァンシュタイン城にて

景は、日本ではあまり見られないと感じました。街中が見える丘から望むフライブルク、一人旅で訪れたローテンブルク旧市街、寮の裏にある湖とその高台から見た夕焼け、ノイシュヴァンシュタイン城からの眺望。色も背丈も同じ屋根や、平野の中に点々と置かれた街、絵本のようなパステルカラーの家に、何よりも日本と段違いに広いスケール。まるで非日常の世界を歩いているような気分と、その中で1ヶ月も暮らしているという事実を、最も実感させられました。

この2点を意識しながら過ごしてみると、見て聞いて吸収したいことや胸に刻みたいことがたくさん見つけられて、驚くほどの達成感と充実感を日本に持ち帰ることができました。この夏の感動をバネに、日本でさらに成長した姿で再度ドイツを訪れることが、次の私の目標です。



丘からのフライブルク



ミシシッピ大学メディカルセンター（公式facebookより）

2013年8月より2年間、アメリカ、ミシシッピ大学メディカルセンター、生理学・生物物理学部門に客員助教として留学致しました。ここは医学生理学の世界的ベストセラー『ガイトン臨床生理学』の著者、故Arthur C. Guyton先生が部門長であったことで有名です（現在の部門長は直弟子で共著者のJohn E. Hall先生）。その中で私はMerry L. Lindsey先生のラボで心臓の老化に関する研究を行って参りました。Lindsey先生は心臓における細胞外マトリックスの役割について数多く発表されており、動脈硬化研究を行う私にとって、また同じ女性研究者としても多く研鑽を積むことができると考え、留学先を選びました。

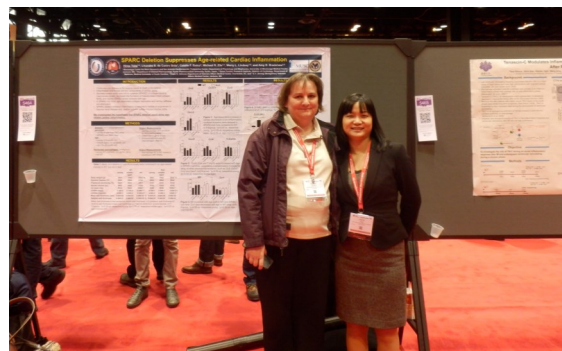
私が担当した研究の1つ、サウスキャロライナ医科大学との共同研究では、心臓の線維化を促進させることが報告されている細胞外マトリックス、SPARC (secreted protein acidic and rich in cysteine) が、マクロファージに直接作用し、炎症反応を惹起させることで心臓の老化を促進することを明らかにしました。この研究結果は筆頭著者として2015年4月のAmerican Journal of Physiology Cell Physiologyに掲載されました。また、留学期間中、共著で論文2報に加え、総説や著書の執筆、学会発表や学内講演など、多くの成果発表の機会にも恵まれました。教育職員の海外留学を活性化させる目的で新設された特別教員制度（留学期間中の分野運営の支援のため、教育職員を3年間採用できる制度）発足後、留学生第1号として、喜び半分、プレッシャー半分で渡米しましたが、本学を世界に発信させる役目を少しは果たすことができたと思ひ、時に厳しくも的確なご指導を賜りましたLindsey先生に感謝しております。私にとっての成果は研究面だけではなく、改めて指導される立場に戻ることで、指導する側、される側を客観的に見つめ直すことができ、今後の教育活動にも有意義な留学であったと感じています。

一見、順風満帆な2年間のようですが、競争の激しい研究生生活、アメリカで一番貧乏な州での单身生活は想像以上に多くの苦難も待ち受けていました。国際色豊かなアメリカの職場では、謙虚で勤勉という

日本人の美德は時に不利に働き、自己表現に長けたメンバーを前に悔しい思いをしたことも少なくありませんでした。滞在初期にはなかなか信頼を得ることもできず、悩んだ時期もありました。それでも2年後にはhard workerという評判でラボを去ることができたことを思うと、海外で働くには、柔軟性や積極性とともに、日本人特有の長所を持って違う方向から勝負することも大切なのではないかと感じました。また、滞在が長くなると、オフィスでデスクを並べていたラボ外のメンバーとも仲良くなり、中でも「外国人」として似た苦労を共有し合える仲間とはお互いを陰で支えあっていました。

生活面では、職場のあるミシシッピ州の州都ジャクソンは全米で8位の犯罪多発都市であり、実験で帰りが遅くなった日には、研究棟から駐車場までは大学警察のパトカーを呼んで送迎してもらわないといけない、という危険な街でした。また南北戦争の舞台であるミシシッピは閉鎖的な考え方の人もまだ多く、他の地域に住むアメリカ人からも、アメリカ南部でもさらに“deep south”という少し偏見を込めた表現で呼ばれる地域でした。日本人駐在員はとも少なく、日本の物資も手に入りにくいいため、学会で都会に出るたびに、日本食のレストランや食材店に駆け込んでいました。そんな中でも“southern hospitality”と現地の人が誇るように、ミシシッピの人は穏やかで温かく、すれ違う人誰とでも言葉を交わす、ゆっくりと時間の過ぎる場所でもあります。特に私の留学生活は不運な出来事も多く、2度の交通事故、インフルエンザ感染、裁判所出廷命令等々、トラブル続きでしたが、ミシシッピの人や数少ない日本の人達に救われ、人の温かさも痛感致しました。公私ともにとても濃密な2年間でしたが、経験は人生の財産ですので、これらの経験を今後の研究、教育活動に還元していきたいと考えております。

最後になりましたが、貴重な留学の機会を与えて下さったことに感謝致しますとともに、研究室内外の留守を温かくサポートして下さった教育職員、事務職員の皆様に厚く御礼申し上げます。



American Heart Association Scientific Session (シカゴ)での学会発表：ボスのLindsey先生と

薬剤学分野 助教 勝見 英正

私は2013年9月から約1年半の間、カナダ・バンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学のPieter Cullis研究室で客員研究員としてドラッグデリバリーシステム（DDS）に関する研究に従事した。



ブリティッシュコロンビア大学
ライフサイエンスセンター

研究室にはCullis教授の他、3名のリサーチアソシエイト、ポスドク、テクニシャンや大学院生が多数在籍していたが、それぞれが独立した研究テーマを持っており、大学院生であっても必要以上の指導は受けず、自身の研究テーマについては責任を持ち独自に進めていた。彼らは皆、自信に満ち溢れており年齢や立場に関係なく率直に意見を述べていて、日本のような遠慮や年功序列などの習慣がないのははじめは衝撃的であった。また付属病院を含めた学内での共同研究も精力的に行っており、基礎研究を臨床に応用して実用化する教授の手腕は素晴らしいと感じた。私は「前立腺がん治療を目的とした核酸医薬品のDDS開発」という研究テーマに取り組み、核酸医薬品を前立腺がん選択的に送達するナノ粒子の開発について検討していたが、幸いにも教授が進めている共同研究先の付属病院の研究者の方と交流する機会があり、臨床の立場から意見を頂戴し自身の研究を俯瞰的に捉えることが出来たのはよい経験になった。

研究室では、毎週ラボミーティングといって、日頃の研究内容を研究室のメンバーの前で発表しそれについてディスカッションする機会があり、またこれとは別に、同じ建物内でセミナーが毎週開催されており、世界中の研究機関からノーベル賞受賞者など有名な教授や若手研究者が招待され研究内容を紹介する機会があった。このような会合に出席するとわざわざ学会に出席しなくても海外の学会の雰囲気を楽しむことが出来た。

研究室に所属して、一定期間がたった頃、私にもバンクーバーで取り組む研究内容を紹介、報告する機会がまわってきた。発表内容にまわりがどういう反応を示すか心配していたが、自分の研究に対する

考えが分かるように一生懸命、丁寧に発表した。すると発表が終わった時に、「いい考えだ。」「いい考えだから、是非そのまま続けよう。」などとよい反応が返ってきた。バンクーバーに来た直後は、文化、習慣や考え方の違いにかなり戸惑っていたが、自分の考えが認められバンクーバーに来て初めて嬉しい瞬間であった。



ライフサイエンスセンター内部の様子

留学全体を通じては、文化の違いにより日本での習慣や方法が通用せず思うようにいかなかったこともあったが、地道な努力によって少しずつ問題を解決し一定の成果を残すことが出来た。また、プライベートにおいても多くの現地の人々との交流することができ大変有意義な時間を過ごすことが出来た。カナダでは、秋冬になると感謝祭やクリスマスなど家族と過ごす大切な行事が沢山あり、そのような行事に家族の一部のように現地の人に招待いただいたことはバンクーバーでのよき思い出となった。今後はこうしたバンクーバーでの約1年半の研究留学生活で得た経験を活かして本学での教育と研究活動に邁進していきたいと考えている。

本研究留学は、本学理事長ならびに学長をはじめとする諸先生方及び薬剤学分野の皆様のご支援により実施出来たものでありこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



ブリティッシュコロンビア大学構内にて

2014年4月1日に京都薬科大学科学振興基金規程を一部改正し、科学振興基金が行う事業に、大学院生の海外留学を支援する「大学院生海外留学助成金」を新設しました。本事業は、大学院生の海外留学活性化を目的としたもので、留学期間3ヶ月以上1年以内の海外留学について150万円を上限として支援する助成制度です。

今回、本事業の支援を受けた2名の大学院生が海外留学を終えました。今後、彼らに続く大学院生の海外留学が活発に行われることを期待します。

■ 激論の先にあるもの



研究室にて
左Beck-Sickinger教授
右筆者

「議論好き」な国民性で知られるドイツに留学する中で私は、生産性の高い彼らの議論に、深い感銘を受けました。議論の中では、食い違う意見に対する頭ごなしな批判や安易な迎合をあまり目にしませんでした。むしろ、互いに分ち合える部分を見出そうとする、冷静な心と相手への思いやりが見えたのです。問題の本質に向き合おうとする彼らの真摯な姿勢は、パワーバランスに頼ったものとは違い、妥協や遺恨のない話し合いを可能にしているように思いました。実際、大人の

喧嘩のような激論を交えた後は、ビールを片手に無邪気な談笑が始まります。当事者間で新たに生まれた共通の価値観は、立場を超えた未来志向の関係を築き、やがて絆を生むのかもしれない。対人関係の希薄化

する我が国を遠くから望んだ時、利害のないことにも一歩踏み込める、“おせっかい”な思いやりが行き過ぎた自由・個人主義を見つめ直す糧の1つにならないかと、考え浮かびました。

最後に、本留学にあたり経済面で支援して頂いた京都薬科大学科学振興基金および日本学術振興会、並びに留学先での研究・生活全般をサポートして頂いたUniversität Leipzig, Prof. Annette G. Beck-Sickingerと研究室メンバー全員に感謝致します。



ビール片手に談笑(研究室前にて)

■ イギリス研究留学

本学の研究・研修を目的とした留学制度を活用し、3～8月の6ヶ月間、イギリスにおいて研究留学をさせていただきました。ロンドン大学(UCL) School of Pharmacyにて、Simon Gibbons 教授よりご指導をいただき、研究を行いました。Simon先生の研究室には10人以上の博士課程学生が所属しており、その大部分

薬学研究科薬学専攻博士課程4年次生 松本 崇宏

が留学生でした。彼らは、ガーナやマレーシアなどから来ている学生であり、彼らへの指導やディスカッションを通して、様々な国の研究や教育について学ぶ良い機会となりました。加えて、修士課程学生に6か月間研究指導を行いました。指導に当たっては英語を使用する必要があり、英語の良いトレーニングになっ



UCLメインエントランス



研究室メンバーとのお別れ会

たと実感しています。

私はこれまでに他国の研究機関において研究活動を行ったことはありませんでしたが、本留学を通して日本の教育および研究レベルが世界的に見ても非常に高い水準であることを実感することができました。中でも、留学先と比較して本学では学部学生の期間においても研究活動を行うことができます。このことは進路選択において学生に多くの選択肢をもたらすとともに、幅広い視野を持った薬剤師の育成につながる方針であると感じました。

今回得ることができた人脈および知識を活かして、日本の研究や教育に貢献したいと考えています。また、多くの学生に本学の大学院生海外留学助成金制度を活用し、国際的視野を広げてもらいたいと思います。



ブレコンビーコンズ国立公園にて

夏の科学実験会を開催しました！ *Event.*

8月19日、20日に「真夏の科学者になろう」というテーマの科学実験会を大学内で初めて開催し、山科近隣の小学生を招待しました。

私たちFriwillyは「ボランティアに対して積極的に考える」ことをコンセプトに、海外での活動や児童館での科学実験会など様々な活動に取り組んでいます。活動の詳細はホームページでも紹介しているのでぜひご覧ください。(http://friwilly.digi2.jp)

今回は「科学を身近に感じてもらい、自分で考えることの楽しさを知ってもらうこと」が目標です。

科学実験として、リトマス紙づくり、ペーパークロマトグラフィー、光の三原色のような視覚的に興味を持ちやすい「色」を題材としたものや、家では出来ない触媒を利用した爆発実験を行いました。ぜひ、動画サイトで「象の歯磨き粉」と検索してみてください。

また、薬剤師体験として模擬症例に対して適切な薬剤を選択し取り揃える薬剤師の仕事を体験し、さらに

ボランティアサークルFriwilly 5年次生 今堀 翔太

薬と食べ物の飲み合わせの実験を通じて、相互作用の現象を学んでもらいました。

科学実験に関しては、身近なものを利用してできるテーマを考え、薬剤師という職種や仕事内容を知らない子どもにもわかりやすい説明を心掛けました。

アンケートでは「とても科学に興味を持ったようで、実験会でやったことを凄く楽しそうに家で話している（保護者）」や「もっと薬剤師のお仕事の体験をしてみたい！（小5）」といった嬉しい感想が多く寄せられました。

今後も薬学生ならではの知識や経験を活かして、近隣地域に貢献できるように、積極的に活動を続けていこうと考えています。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった職員の皆様、並びにサポートして頂いた皆様、本当にありがとうございました。



笑顔で実験を楽しむ児童たち

第2回 卒業生・在学生交流会を開催しました！

Event

進路支援課

2015年8月8日（土）に「卒業生・在学生交流会」を開催いたしました。「卒業生・在学生交流会」は、卒業生には本学との絆を強めることを、在学生にはキャリア支援の充実を目的としています。

第2回となる本年は、2013年3月卒業生（6年制2期生）に帰ってきていただきました。

当日は晴天に恵まれ、卒業生25名、5年次生82名、教育職員25名と多数ご出席いただき、昨年以上の盛り

上がりで会を終えることができました。

第1部の座談会では、職種毎に分かれた卒業生（2～4名程度）が各々10名程のグループに分かれた在學生に、現在の進路を選んだ理由や業務内容などについて、ざっくばらんにお話いただきました。在學生から積極的に質問する姿もいたる所で見られ、職種毎のやりがいや大変なところを具体的に理解できる良い機会になりました。



西口進路支援部長による開会の挨拶



座談会の様子

次に、第2部の茶話会からは教育職員の先生方にもご参加いただき、卒業生・在学生と共に絆を深めることができました。予定時間の最後まで、大変多くの参加者の笑い声が聞こえておりました。



後藤副学長による乾杯の挨拶



茶話会の様子

他方、交流会の実施に先立ち、卒業生（6年制2期生）には、本学のホームページ等を活用した「卒業生アンケート」に協力していただきました。多くの教育職員の皆様のお力添えにより、卒業生356名中166名（回答率：46.6%）から回答を得ることができました。

「本学に入学して良かったと思いますか」という設問に対して、“非常にそう思う”あるいは“そう思う”と回答した卒業生が96.9%を占めたことが大変印象的でした。「卒業生アンケート」では、大学を

より良くするためのご意見・ご提案も多くいただいております。今後の本学の取り組みにつなげていきたいと考えています。

「卒業生・在学生交流会」は次年度も実施する予定です。参加対象となる現4年次生ならびに卒業生（2014年3月卒）の積極的な参加を期待しています。

最後になりましたが、「卒業生・在学生交流会」ならびに「卒業生アンケート」にご協力を賜りました卒業生、在學生、教育職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

2015年度京菓祭を終えて

Event

2015年度京菓祭実行委員長 住田 大志

今年の京菓祭も無事に終了し、自分の役目を何とか果たせたのではないかと、ほっとしています。9月半ばから本格的な京菓祭の準備が始まり、私の仕事の締め切りに追われているうちに、気が付けば当日を迎えていたという印象が強かったです。

私が第51回京菓祭実行委員長を務めさせていただくとは夢にも思っておりませんでした。実行委員会のメンバーはもちろんOB・OGさんや地域の方々、そして学生課を始めとした学校関係者の皆様に支えられ京菓祭を作り上げることが出来ました。



ステージ クイズ企画

この2年半の活動を振り返ってみると、本当に色々ありました。私が実行委員会に入ったのは、部活枠という各部活から代表が実行委員会に入るという決まりもありましたが、友達も一緒に入ると聞いたことが大きかったと記憶しています。

しかし、人見知りの性格もあって、1年次生のときは黙々と作業をするのみで周りのみんなとほとんど会話をしていませんでした。当日を終えてもあまり達成感は感じておらず、なんとなくという気持ちで続けました。

2年次生では楽そうだからという理由で、フリーマーケット企画に立候補しました。事実とても準備が楽で、他の実行委員が頑張っている横で暇にしておき、手伝いに駆り出される形でみんなと仲良くなっていきました。

思えばこの時が最も自由にできていた時間でした。しかし、この年の京菓祭では自分にとって悔いの残るミスをしてしまい、そのリベンジも兼ねて今年は幹部をしようと決意しました。

それから紆余曲折があり、前述の通り実行委員長を務めさせていただくことになりました。組織のリーダーとして求められる理想は様々あると思いますが、私が意識したのは、ステージ企画を任された1、2年次生が自分のやりたいことをできるように支えていくことでした。



フリーマーケット イベント

去年私が自由に活動できていたのは、先輩が裏で頑張ってくれたからであると、3年次生になってようやく気づくことが出来ました。

来年の京菓祭のために準備に取り掛かっている実行委員の後輩の中にも、今年の京菓祭を終えてみて、今はただ大変だったと感じている人がいると思います。しかし、高校と違い自分たちで学園祭を作り上げていく環境の中に、必ず得るものがあるので是非続けていって欲しいと思います。

最後になりましたが、2015年度京菓祭の開催にあたり、ご理解、ご協力をいただきましたすべての関係者、地域の皆様に深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。これからも京菓祭を宜しく願いします。



フリーマーケット 会場



こどもランド 実験会場

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、2014年4月号(No. 177)から大学院研究活動等を報告しています。ぜひご覧ください。

■9月10日（木）第2回KPU-OHP臨床医薬カンファレンス「薬剤起因性消化管疾患の基礎から臨床まで」

京都薬科大学と洛和会音羽病院との学術交流等に関する包括協定の一環として実施。多数の学部生・大学院生が参加しました。

■9月17日（木）～19日（土）第44回国際実験血液学会

The ISEH 44th Annual Scientific Meeting in Kyoto, Japan

薬学専攻博士課程4年次生高田哲也さん（病態生理学分野）がポスター発表を行いました。

“ION TRANSPORT-ASSOCIATED MOLECULES AS THERAPEUTIC TARGETS AGAINST GLIOBLASTOMA STEM CELLS”

薬学専攻博士課程1年次生河西翔平さん（病態生理学分野）がポスター発表を行いました。

“CHARACTERIZATION OF MICROGLIA-LIKE CELLS DERIVED FROM MOUSE BONE MARROW CELLS FOR NEW THERAPEUTIC STRATEGY OF ALZHEIMER'S DISEASE”

■9月25日（金）「英語プレゼンテーション・SGD」開講

大学院の自由科目として、「英語プレゼンテーション・SGD」を開講しました。英語を使つてのSmall Group Discussion、プレゼンテーションと質疑応答をセミナー形式で学びます。

■9月30日（水）2015年度前期学位記授与式

課程博士2名、論文博士7名の学位が授与されました。



英語プレゼンテーション・SGD

■10月8日（木）～10月10日（土）第74回日本癌学会学術総会

薬学専攻博士課程4年次生高田哲也さん（病態生理学分野）がポスター発表を行いました。

“Possibilities as therapeutic targets of ion transport-associated molecules against glioblastoma stem cells”

■10月8日（木）第12回「とにかく英語を口にしよう」

ー留学帰国報告ー

薬学専攻博士課程4年次生松本崇宏さん（生薬学分野）

Research Study at University of London, “UCL School of Pharmacy”

今年の3月から8月までのロンドン大学での研究留学の報告が行われ、教育職員、大学院生、事務職員など26名が参加しました。



留学帰国報告

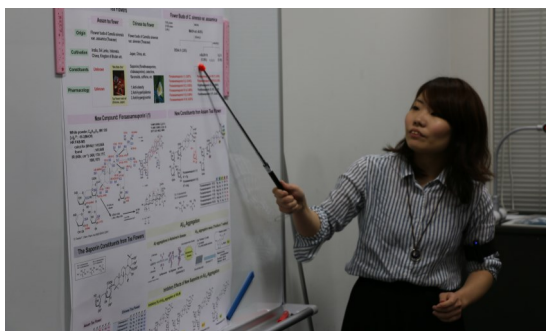
■10月22日（木）第13回「とにかく英語を口にしよう」

ーポスターセッションを学ぶ：第3回ー

薬学専攻博士課程3年次生太田智絵さん（生薬学分野）

“Research of biofunctional constituents from Assam tea flower”

2015年10月30日（金）～11月2日（月）に台湾で開催される「7th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference」でのポスター発表のリハーサルを兼ねて開催しました。教育職員、大学院生、事務職員など18名が参加し、活発な質疑応答が行われました。



ポスターセッションを学ぶ：第3回

■10月29日（木）～10月31日（土）第53回日本癌治療学会学術集会

薬学専攻博士課程4年次生地寄悠吾さん（臨床薬学教育研究センター）がポスター発表を行いました。
“Prediction of Myelosuppression Profiles Using Population Pharmacodynamic Model Based on Routine Clinical Data after GC Treatment”

■10月30日（金）～11月2日（月）7th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference

- ・薬学専攻博士課程4年次生松本崇宏さん（生薬学分野）が口頭発表を行いました。
“Structures of constituents isolated from the flower buds of *Cananga odorata* and their bioactivities”
- ・薬学専攻博士課程3年次生太田智絵さん（生薬学分野）がポスター発表を行いました。
“Research of biofunctional constituents from Assam tea flower”
- ・薬学専攻博士課程1年次生深谷匡さん（生薬学分野）がポスター発表を行いました。なお、本発表においてポスター賞を受賞しました。
“Alkaloids with melanogenesis inhibitory effects from Leaves of *Murraya koenigii*”

■11月9日（月）A★STAR-KPU Joint Symposium

“Close Encounters of Immunology”-For Education of Young Cancer Investigators-
研究者養成の観点から、国際シンポジウム（主催 がんプロフェッショナル
養成基盤推進プラン：文部科学省）を開催いたしました。



A★STAR-KPU Joint Symposium

■11月13日（金）課程によらない論文博士口述発表

学位授与申請者1名の口述発表を行いました。

News クラブだより

卓球部

活動実績

- 2015年 第65回全日本薬学生卓球大会
女子 団体優勝/シングルス準優勝/ダブルス第3位
- 2015年 第69回関西薬学生卓球大会
女子 団体優勝/シングルスベスト4
- 2012年 全国薬学生大会
女子 シングルスベスト8
- 2012年 関西薬学生大会
男子 団体戦3位/シングルスベスト8/
ダブルスベスト8
- 女子 シングルスベスト4、ベスト8/ダブルス2位

今後の予定

3月15日～18日 西歯歯卓球大会

茶道部

茶道部は毎週火曜日、外部から先生をお招きしてお稽古に励んでおります。

11月に行われました京菓祭では、2日目に薄茶と和菓子のセットを販売させていただきましたところ、1年生の着物姿も含めたくさんのお褒めの言葉を頂きました。来年も茶道部らしいおもてなしを、と考えております。

只今茶道部は、毎年4月に開かれております春のお茶会に向けて準備を進めています。部員一同一生懸命にお稽古に励んでおりますので、お越しいただけると幸いです。

管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。

11月現在、私達は11月23日に行われる定期演奏会に向けて日々練習しています。11月に入り練習もさらにハードになって大変ですが部員一同、力を合わせて演奏する曲を仕上げるためにラストスパートをかけている状況です。この定期演奏会で演奏する3曲に向き合ってきて早1年弱、それまでの色々な思いを曲に乗せて定期演奏会で演奏しますので、毎年行われる定期演奏会、また普段から我々の活動にご注目下さい！

News お知らせ

■ 2015年度実験動物慰霊祭

10月26日（月）に、本校地の実験動物慰霊碑前において、2015年度実験動物慰霊祭を執り行いました。

たいまじ

当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。

武田理事長、乾学長、山本バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、教育・研究に貢献した多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

第101回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験期日	2016（平成28）年2月27日（土）・2月28日（日）
試験地	北海道 宮城県 東京都 石川県 愛知県 大阪府 広島県 徳島県 福岡県
試験科目	[必須問題試験] 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務 [一般問題試験] ・薬学理論問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理 ・薬学実践問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
合格発表	2016（平成28）年3月28日（月）

卒業

業生からのメッセージ



治験の現場で働く

光枝 亜佐子



2013年 学部卒業
（薬品物理化学分野）

京都大学医学部附属病院
臨床研究総合センター
治験管理部

私は2007年、6年制の2期生として入学しました。在学中には躬行館や臨床薬学教育研究センターなどが次々に増設され、新しい校舎ができあがるのを楽しみにしていた記憶があります。また、京薬祭実行委員会、茶道部、他大学のテニスサークルに所属し、学内外問わず多くの人と知り合えた事も、とても良い思い出です。

卒業後は、外資系の製薬企業にMRとして就職しましたが、直接患者さんの顔が見える環境で働きたい、という思いが強くなり、1年半で病院薬剤師への転職を決心しました。

京大病院薬剤部に入職してからは、半年ほど調剤や抗がん剤のミキシング業務を経験し、2015年の4月から治験管理部に異動しました。

京大病院では1年でおおよそ100件の治験が動いており、20名近い治験コーディネーター（CRC）が、それら

をサポートしています。新しい治験が病院で始まる時は、CRCが中心となり、担当医師、薬剤部、看護部、検査部、事務担当部など様々な部門と協働して、実施体制を作り上げていきます。患者さんが治験の診察を受ける際は、CRCが同席して診察のフォローをしたり、患者さんの相談に乗ったりします。また、製薬企業やCROのモニターさんの窓口となり、治験の実施計画書（プロトコル）と医療現場の実情との擦り合わせを行うのも、私たちCRCの仕事です。これらの業務を行う上で、几帳面さ・先読みする力・コミュニケーション力が、CRCに求められる資質であると考えます。

病院内で誰よりもプロトコルを熟知し、自らが主体となって治験を進めていくことができるのが、CRCの仕事の面白い所だと思います。また、患者さん一人一人と深く関ることができるのも、CRCならではの醍醐味であると思います。学生時代は、まさか自分がCRCになるとは夢にも思っていなかったですが、今では日々やりがいを感じながら働いています。医薬品の開発に興味のある方は是非、進路の選択肢の一つとして考えてみてください。

最後になりましたが、進路に迷った時は、先読みしすぎず、まずは目の前の興味のある事に取り組んでみてください。（先程CRCには先読み力が必要と言ったばかりですが）私のように、思わぬ経緯で、面白いと思える仕事に巡り合えることもあるものです。是非、色々なことに好奇心を持ち、有意義な学生生活を送ってください。

入試課

2015年11月1日（日）に秋のオープンキャンパスを開催しました。心配していた雨模様とはならず秋晴れの天候のなか、同日は京葉祭の模擬店出店等もあり、388名の参加者がありました。会場を躬行館T31講義室とし「学長挨拶」、「大学紹介（入試広報委員長）」、「在学生の話」、「卒業生の話」を行い、「見学施設の概要説明」を説明後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、6年次生の遠藤京子さんに本学を志望した理由や分野での研究活動を通じて成長できたことなどご自身の体験を通した話がありました。「卒業生の話」では、京都府立医科大学附属病院に勤務されている大久保茜様をお招きして、本学の魅力や本学を選んだ理由、本学に在籍し経験したことのメリット、病院薬剤師としての仕事などをわかりやすくお話していただきました。「施設見学」では、臨床薬学教育研究センター、躬行館にある6分野及び図書館の協力を得て見学を行いました。見学誘導は学生広報スタッフが担当し、参加者と本学在学生が交流できる場にもなりました。「相談会」は、本学の職員と在学生が相談員となり、121名（前年比108.0%）の相談者がありました。相談内容は、入学試験や進路、奨学金、学生生活などで、相談会参加者のとても熱心に質問、相談される姿が印象的でした。

今後とも、参加者の方に本学の教育・研究環境を知っていただくためにオープンキャンパスをより一層充実したものにしていきます。

【参加者内訳】

高校1年生：54名、高校2年生：79名、
高校3年生：51名、既卒生：14名、付添者：190名



学長挨拶の様子



学生スタッフによる誘導

2016年度推薦入学試験結果

Report

入試課

2016年度推薦入学試験の内、指定校制推薦入学試験が2015年11月16日（月）に、一般公募制推薦入学試験は11月21日（土）に実施され、11月30日（月）に合格発表が行なわれました。

その結果は右のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	53名	53名
一般公募制推薦	80名	308名	82名

Library News

図書館

開館日程

2016年 1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2016年 2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

2016年 3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8:30-21:00

8:30-17:00

10:00-17:00

休館

休館=館内整備

2015年度の防災訓練が9月29日本校地で実施されました。本年の防災対策委員会（委員長 乾学長）で、これまでの課題でありました、学内で避難する人数が最も多い「授業時間中に災害があったら」を想定した訓練を行うことを決定し、昨年とは内容を大幅に変えて初めての試みとして「全員避難」を本校地で実施しました。午後の授業を30分繰り下げるため、年間行事にも組み込み、また1,000名を超える規模の避難訓練のため、山科消防署との相談や指導を受けました。当日は学生・職員の方々、関係者の協力のもと、安全な状態で参加者全員が中央庭園へ避難することが出来ました。また課題も多く発見することが出来ました。この課題を次回に生かし、より充実した防災訓練にしたいと思いますので今後ともよろしく御協力をお願いします。



身体防護の措置



中央庭園への避難の様子



危機対策本部長
武田理事長



防災対策委員長代理
後藤副学長



山科消防署予防課
三野課長

訓練の総括

本年はこれまでにない1,000名を超える参加の避難訓練であり、最大の課題が階段・合流地点等での転倒事故を防ぐことでありましたが、その点では万全を期して実施出来たと思います。

本学の建物はすべて耐震建物で地震等で倒壊することはまずありませんが、家具の転倒やボンベ等の移動、薬品の落下も十分想定されます。日頃からの備え見直しが重要です。今回の訓練を通じいつ災害が起きてもパニックにならないよう、冷静に行動できるようにしていただきたいと思います。

今回の防災訓練でのご意見を「施設課」までお寄せください。



1,000人を超える避難者でいっぱいになる中央庭園

施設課

新体育館兼中央講堂は本学の創立130周年記念事業の一環として建替えられました。平成26(2014)年5月より旧中央講堂兼体育館の解体工事、9月より新築工事に着手し、約1年半の工事期間を終え、平成27(2015)年12月に「創立130周年記念館」として命名され、無事竣工致しました。

当施設は地域の災害時の避難施設として位置づけられており、耐震性・安全性を有した施設と建設されています。外観はレンガ調タイルを基調とし、キャンパス内の既存建物との調和を図っています。

■施設の構造・規模

鉄骨鉄筋コンクリート造、地上3階建て（体育館[講堂]部分は1階建て）建築面積2,703.58㎡ 延床面積3,611.37㎡

■主要諸室

- 1階：体育館（講堂）、舞台、エントランスロビー、ピロティ
- 2階：トレーニングルーム、更衣室、シャワー室、ギャラリー固定席
- 3階：健康科学分野諸室、設備室

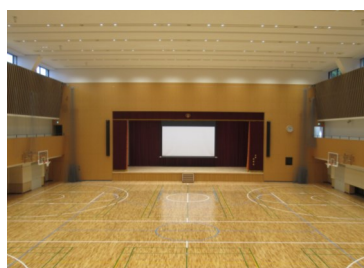
■体育館（講堂）主要設備

バスケットコート2面、バレーコート2面、バドミントンコート6面

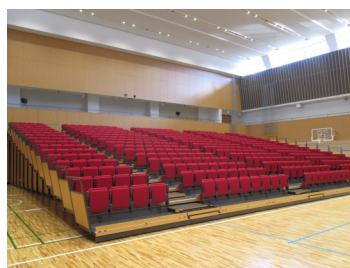
体育館（講堂）には壁面収納式の全自動型観覧席（512席）を併設し、2階固定席並びに移動椅子も含めて、約1,000席を確保することが出来、入学式・卒業式等の式典や講演会・セミナー等の催しにも対応が可能です。天井高さはバレーボールの国際大会基準である12.5mの高さを確保しています。また、照明は調光機能のあるLED照明を採用し、各催し毎に照度設定が可能です。さらに、100kWの太陽光発電パネル（屋上）と20kWの蓄電池を設置し、省エネルギー化に寄与するとともに、災害時の避難所としての機能を充実させた施設となっております。



創立130周年記念館 外観



体育館（講堂）の内観



体育館（講堂）：全自動型観覧席



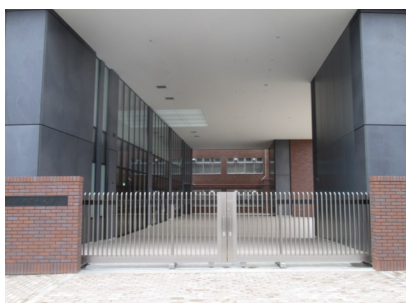
2階ギャラリー・固定席

■ピロティ・外構

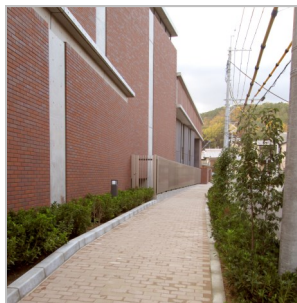
東門（旧東門より北へ移動）に面して学生を迎え入れる施設構えとして半屋外空間である2層吹抜けの開かれたピロティを設けています。ピロティは式典等催し時の多人数利用における滞留空間としても寄与します。建物東側には道路沿いに大学所有地内に歩道・植栽帯を整備し、学生や近隣住民の通行の安全性を確保した歩道を設置。また、三条通り交差点に面しても溜り空間（ポケットパーク）を設けることで、信号待ちの人と歩道歩行者との渋滞緩和を図り、安全性を高めています。

■建設寄付金・寄贈品

当施設は皆様からの多くの寄付金を建設費の一部とさせて頂いております。それを記念し、エントランス壁面に寄付銘板を掲示させて頂きました。また、大学同窓会である京薬会からは舞台にある緞帳・袖幕を寄贈頂きました。無事に竣工致しました御報告と共に厚く感謝並びに御礼申し上げます。



東門・ピロティ



東側歩道



寄付銘板



緞帳・袖幕

※ 創立130周年記念館の詳細については、KPU NEWS 4月号で特集予定です。

第21回 京都薬科大学 公開講座 開催

Event

生涯教育センター

2015年10月24日（土）、本学躬行館T31講義室及び薬用植物園御陵園において、「第21回 京都薬科大学 公開講座」を開催いたしました。はじめに乾賢一学長から開会の挨拶があり、前半は、本学一般教育分野の坂本尚志准教授による「健康と病気を哲学する」、本学薬理学分野の大矢進教授による「オーダーメイド医療」の2講演が行われました。参加者からのアンケート結果では、「両講演とも高度な内容をできるだけ分かり易くお話しされ理解できた」「遺伝子の講座は大変ありがたく思いました」「数十年ぶりの哲学講座受講とても分かり易かった」等の声がありました。

後半は、薬用植物園御陵園（2015年9月1日から改称）での見学を実施しました。昨年度からの新企画で今年2回目という事もあり、リピーター、口コミ、友達からの誘いで参加という方が多く見受けられました。解説タイムでは本学教員に加え、本学学生（学部・大学院）を説明員に起用した事が昨年に続き大好評で、貴重な植物が見られた事、スタッフへの感謝の言葉や「説明がよかった！また来たい」「貴重な体験をさせていただき感謝の気持ちで一杯です」「手入れが行き届いた良い植物園だと思った」等の高評価をいただきました。好天にも恵まれ楽しく非常に有意義な見学となりました。

本年も無事開催終了できました事を心より御礼申し上げます。



坂本尚志准教授



大矢進教授



御陵園見学①



御陵園見学②

京都市山科区役所と地域連携に関する協定を締結

Report

企画・広報課

本学と京都市山科区役所は、2015年8月28日に地域連携に関する協定を締結しました。本学で行われた調印式には、本学及び京都市山科区役所関係者が出席し、乾賢一学長と堀池雅彦山科区長により協定書が取り交わされました。連携・協力の内容としては、「地域貢献及び地域活性化」、「地域住民の健康と福祉の増進」、「地域の防災と安全・安心の推

進」、「教育・研究活動の振興」、「地域に貢献できる人材の育成」等を主な内容としています。

今後は、本学の教育研究の成果や学生の力を活かし、京都市の政策である「健康長寿のまち京都」や「世界一安心安全・おもてなしのまち京都」の実現に向けた連携事業を展開していきます。



左：乾学長 右：堀池山科区長



調印式出席者

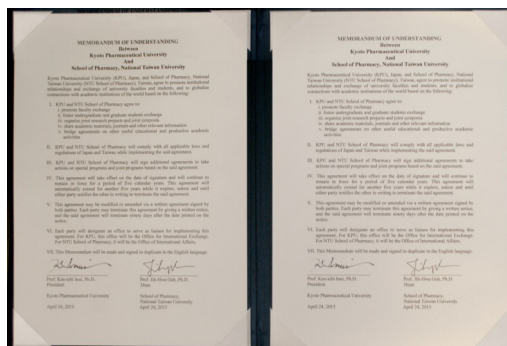
2015年度は、海外の3大学と国際学術交流協定を締結しました。
各大学とは今後、学生交流及び研究交流を行う予定です。

■ 国立台湾大学（台湾）

本学と国立台湾大学（台湾）は、2015年4月24日に学術交流協定を締結しました。台湾の国立台湾大学にて乾賢一学長および 国立台湾大学の顧記華薬学部長によって調印式が行われました。



左：Jih-Hwa Guh 薬学部長
右：乾 賢一 学長



国立台湾大学との協定書

■ MCPHS University（アメリカ合衆国）

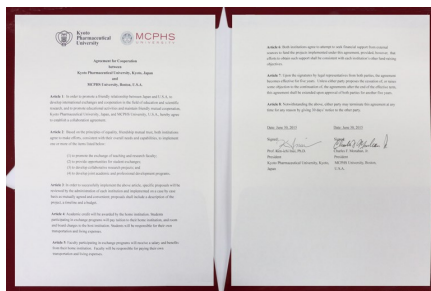
本学とMCPHS University（アメリカ合衆国）は、2015年6月30日に学術交流協定を締結しました。
MCPHS Universityにて乾賢一学長および Charles F. Monahan, Jr 学長によって調印式が行われました。



左：Charles F. Monahan, Jr 学長
右：乾 賢一 学長



MCPHS Universityの方々と



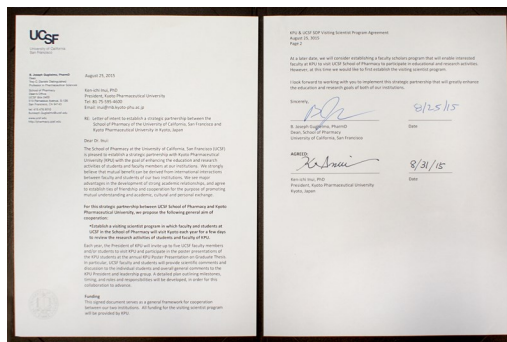
MCPHS Universityとの協定書

■ University of California, San Francisco (UCSF), School of Pharmacy（アメリカ合衆国）

本学とUniversity of California, San Francisco, School of Pharmacy（アメリカ合衆国）は、2015年8月25日に学術交流協定を締結しました。



左：乾 賢一 学長
右：B. Joseph Guglielmo 薬学部長



UCSF, School of Pharmacyとの協定書

シラバスにも一部掲載されているように、2015年度後期の試験日程は別表のとおりです。

再試験受験手続が遅れる学生が、例年見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）をよく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。

《後期試験等日程表》

年次	試 験	試験期間	合格発表	受験手続日
6	薬学特別演習 本試験	1月7日(木) 1月8日(金)	1月19日(火)17:00～ 1月24日(日)24:00 Webによる公開	—
	薬学特別演習 再試験	2月4日(木) 2月5日(金)	卒業査定会[2/16(火)]後 成績通知書を配付	1/20(水)・1/21(木)
4	後期試験	1月18日(月)～ 1月20日(水)	1月28日(木)17:00～ 2月4日(木)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月5日(金)～ 2月10日(水)	2月17日(水)17:00～ 2月22日(月)24:00 Webによる公開	1/29(金)・2/1(月)
	前・後期再試験Ⅱ	2月23日(火)～ 3月1日(火)	進級査定会[3/23(水)]後 成績通知書を配付	前期科目:1/29(金)・2/1(月)* 後期科目:2/18(木)・2/19(金)
	OSCE本試験	12月12日(土) 12月13日(日)	別途掲示告知	—
	OSCE追・再試験	3月7日(月)	進級査定会[3/23(水)]後 成績通知書を配付	別途掲示告知
	CBT本試験	1月26日(火) 1月27日(水)	別途掲示告知	—
	CBT追・再試験	3月 3日(木)	進級査定会[3/23(水)]後 成績通知書を配付	別途掲示告知
1～3	後期試験	1月20日(水)～ 1月28日(木)	2月12日(金)～ 1年次 15:00 2年次 15:30 3年次 16:00 2月22日(月)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月23日(火)～ 3月1日(火)	進級査定会[3/23(水)]後 成績通知書を配付	2/15(月)・2/16(火)

*4年次前期科目の再試験Ⅱと後期再試験の受験手続を同時に行なうので、該当者は注意してください。

2015年度の教育後援会総会が、10月3日（土）13時からT31講義室に於いて開催されました。今年は初めての土曜日開催ということで、昨年の参加人数を大きく上回り、234名のご父母にご参加いただきました。

はじめに、福田会長、武田理事長の挨拶があり、乾学長から大学の近況等について説明が行われました。続いて、4年次生父母幹事である謝様の副会長就任など役員の紹介があり、その後議事に移りました。

まず、2014年度決算と2015年度事業計画案・予算案について報告が行われ、2015年度予算については下表のとおり承認されました。なお、2015年度からの新規事業として、「5年次生に対する白衣授与」の1件が新しく追加されています。また、前年度まで補助していた「インターネットによる自己学習システム」は、本年度から実施しないこととなりましたので、予算か

らは削除しています。

その後、教務部長の秋葉教授から「本学の薬学教育と学修支援について」、進路支援部長の西口教授から「本学の就職支援について」の講演が行われ、最後に今西会計監査より閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

参加したご父母からは、「土曜日開催になって助かった」「講演を聞いて親の意識も高まった」「帰宅後、今日聞いた話について子どもと話し合いたい」などの感想が寄せられ、概ね満足いただけた内容であったように思います。

来年度も同時期での開催を予定しております。日程が決まり次第、改めて本誌及び案内状にてご案内いたしますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

●2015年度教育後援会予算（一般会計）

項 目	予 算 額	使 途
学生生活支援事業	1,500,000	学生教育研究災害傷害保険料補助（6年間分）
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,000,000	学生補助金
	150,000	弔慰金
	1,500,000	課外講座受講料補助（学内で開講する課外講座の受講料の一部を補助）
	200,000	一般図書の寄贈
	500,000	卒業祝賀会への協賛
	1,125,600	卒業記念品の贈呈
小 計	6,175,600	
父母対象事業	600,000	会合費・事務費・郵送料
	1,200,000	KPU NEWS 郵送料
小 計	1,800,000	
教育研究支援事業	574,560	分子模型の贈呈（2016年度新入生対象）
	1,764,000	参考書「治療薬マニュアル」の贈呈（2016年度4年次生対象）
	1,450,000	長期実務実習に向けた追加ワクチン接種代
	959,040	白衣授与
小計	4,747,600	
予備費	200,000	
積立金	1,000,000	将来の各種事業に向けた積立金
支出合計	13,923,200	

■ 緊張について

多くの人が一度くらいは、緊張しないように、あがらないように、と自分に言い聞かせて、更に緊張を強めてしまったような経験をお持ちではないでしょうか。かく言う私自身も、緊張しないでおこうと思えば思うほど、緊張してしまったという体験があります。

さて、学生生活の中で緊張場面に遭遇することも少なくないのではと考え、今回は「緊張」をテーマに取り上げてみたいと思います。

皆さんが緊張状態に陥るのはどんなときでしょうか。例えば、ストレスや不安等を感じる場面に直面したとき緊張しやすいのではないのでしょうか。人はストレスや不安を感じると、交感神経の緊張が強くなり、その結果、動悸、手や声の震え（筋肉の緊張）、体温や血圧の上昇など、様々な身体反応が現れます。これらは緊張を要する場面に対応するために生じている反応であり、自然な生理反応と考えられます。ほどよい緊張感を持って物事にあたること、パフォーマンスが向上するという事実からも、適度に緊張すること自体は悪いことではないのです。ただ、過度な緊張状態が持続すると疲弊しきってし

まいますから、この場合は緊張を緩めることが必要になります。緊張する場面に遭遇したときには、緊張しないことを目指すのではなく、適度に緊張し、適度に緩めることが大切だと思います。

では、どうやったら緩めることができるのか。巷でも数多くのリラクゼーション法が紹介されていますが、色々試しながら自分に合った方法を見つけていただく必要があります。残念ながら、万人に使えるような万能な方法はありませんが、比較的多くの人に効果が期待されるものとして、身体から緊張を解いてゆく方法があります。例えば、腹式呼吸法、筋弛緩法（筋肉の弛緩）などです。これらの方法には、身体の緊張を解くことで心も落ち着いてくる効果があります。また、身体とその感覚に注意を向けることで、緊張反応を何とか打ち消そうという考えで頭がいっぱいになっている状態から離脱できるというメリットもあります。

腹式呼吸法は皆さんご存知だと思いますので、筋弛緩法を簡単に紹介して、本稿を閉じさせていただきたいと思います。

（臨床心理士 建部 有里）

【筋弛緩法】

可能ならば目を閉じた状態で行うことが望ましいです。行う姿勢については立位や臥位でも、椅子に着席した状態でも構いません。

1. 出来れば目を閉じ、手や腕、首や肩、顔など体の各部位の筋肉に痛みが出ない程度でぎゅーっと力を入れる。筋肉が緊張している感覚を味わう。力を入れる時間は5～10秒程度。（筋肉の緊張状態を作り出す。）
2. ストンと一気に力を抜き、その状態を10～20秒程度維持する。緊張が緩み、筋肉が脱力した感覚を味わう。（筋肉を弛緩させる）※1～2を数回繰り返していただくとより緊張緩和が期待されます。

【実施にあたっての留意点】

- ① 痛めている部分や違和感を感じた部分では行わないでください。
- ② 持病をお持ちの方は必ず医師に相談して行ってください。

■ 学生相談室のご案内

● 相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

● サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・ 開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・ 電話：075 - 595 - 4672
- ・ メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください。

会議名：第68回世界保健総会

(68th World Health Assembly)

開催期間：2015年5月18日（月）～5月26日（火）

開催場所：国際連合ジュネーブ事務局（スイス）

世界保健総会はWHOの全194の加盟国代表で構成されるWHOの最高意思決定機関であり、保健医療に係わる重要な政策決定や事業計画が行われます。国境なき医師団等のNGO団体も参加が認められており、今回私は日本薬学生連盟を代表して国際薬学生連盟(International Pharmaceutical Students' Federation)の代表団の一員として会議に参加させて頂きました。今年はアメリカ、ブラジル、フランス、ルワンダなど世界19か国から合計31名の薬学生の参加がありました。

8日間の会議日程で、エボラ出血熱、HIV/AIDS、マラリア、薬剤耐性菌、グローバルワクチン計画など数多くの重要な議題が話し合われました。また、今年6月のG7サミット開催国であるドイツのメルケル首相がゲストスピーカーとして招かれ、感染症対策をG7の主要な課題として取り組んでいきたいと述べられていました。

この総会を通じて最も感じたこと、それはPublic Health（公衆衛生）の重要性です。日本を含めた先進国では、衛生的な飲み水が供給されることや必要なワ

5年次生 茅 薇薔

クチンが受けられることなどは当然のように捉えられていますが、世界の多くの発展途上国ではいまだにそれが保証されていない現状があります。この現状に対する取り組みとして、すべての人々が基本的な保健サービスを適切な価格で受けることができるユニバーサル・ヘルスカバレッジの推進を、日本の厚生労働省も「保健医療2035」の取り組みの1つとして重要視しています。日本は医療先進国であるので、その技術や知識をこれからの国際保健にどう生かしていくことができるのか、そのために私たちは何ができるのかなどを考えながら、グローバルな視点を持って医療に係わる姿勢持つことも大事だと感じました。



2015 68th WHA IPSF代表団集合写真
(筆者：最前列右から3人目)

5年次生 川田 暁

私はこの夏、国際薬学生連盟(International Pharmaceutical Students' Federation; IPSF)主催の世界会議(IPSF World Congress)に参加してきました。今年度のWorld Congress(7月30日～8月9日)はインドのハイデラバードで開催され、およそ300人の各国の薬学生が参加して、シンポジウム、ワークショップ、キャンペーン活動、各国代表者会議(General Assembly; GA)等が行われました。



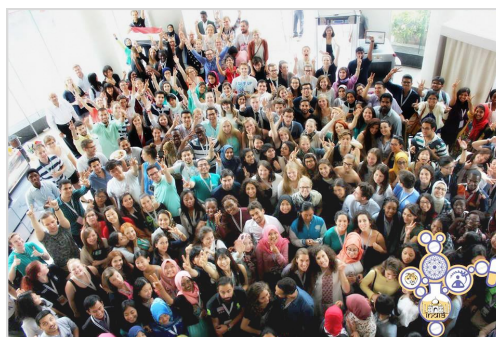
Opening ceremonyにて日本が紹介されたシーン

私は開催期間中を通して、GAに出席しました。そこではIPSFが掲げた年間の活動方針を振り返り、各分野の活動成果を発表します。その後各国代表者により承認の議決が行われます。話し合いは勿論すべて英語で、時には厳しい意見が飛び交いますが、2017年のWorld Congressの開催地には台湾が選出されて各国から祝福を受けるという非常にあたたかいシーンもありました。

日本にも、日本薬学生連盟という日本で唯一の全国規模の薬学生の団体があります。今回のWorld Con-

gressへの参加も、この日本薬学生連盟を通じて得た機会でした。私は昨年からそこで国際交流や、公衆衛生など幅広く活動してきました。海外の友人たちと、互いの活動について話すと、そこに込めた彼らの思いの深さに驚かされました。また、将来を考えるにあたって、病院・薬局・企業の枠にとらわれず、国内外の医療組織や国際機関、ボランティア活動に参加することも視野に入れる学生が多数いたことも印象深かったです。

2016年度アジア会議(APPS)は韓国で、2017年度World Congressは台湾で行われます。この機会に、多くの日本の薬学生にこの世界の場に来て、刺激を受け、本気で語り合える仲間を作ってほしいと強く思います。



各国入り乱れての集合写真。全員薬学生！

採用

共同利用機器センター 准教授 長谷川 功紀
事務局学生課 外村 友彦
(以上2015. 10. 1付)
分析薬科学系薬品物理化学分野 教授 斎藤 博幸
放射性同位元素研究センター 准教授 河嶋 秀和
(以上2016. 1. 1付)

昇任

事務局研究・産学連携推進室 室長 武野 薫
(前 事務局研究・産学連携推進室 室長代理)

事務局会計課

主事 夜船 宏哉
(前 事務局学生課)
(以上2015. 10. 1付)

生命薬科学系公衆衛生学分野
医療薬科学系臨床薬学分野

講師 長谷井友尋
助教 峯垣 哲也
(以上2016. 1. 1付)

配置換

事務局庶務課

主事 佐藤 和巳
(前 事務局会計課)
(2015. 10. 1付)

受賞・掲載

Report

■ 日本薬学会近畿支部総会・大会において ポスター賞受賞

2015年10月17日に大阪大谷大学で開催された「第65回日本薬学会近畿支部総会・大会」において、本学の学生8名がポスター賞を受賞しました。

受賞者：薬理学分野 5年次生 清水 彩夏

演題：K562細胞におけるスプライシング阻害剤によるtwo-pore型K⁺チャネルK_{2p}5.1発現・活性調節

演者：清水 彩夏、遠藤 京子、タギシ 和隆
大和 優介、黒川 なつ美、鬼頭 宏彰
藤井 正徳、大矢 進

受賞者：細胞生物学分野 6年次生 細川 晃平

演題：ウイルス性E3 ユビキチンライゲースK5 によるCD81 分解機構

演者：細川 晃平、小澤 慶介、渡部 匡史
賀川 裕貴、藤室 雅弘

受賞者：細胞生物学分野 5年次生 山中 崇裕

演題：CRISPR-Cas9 を用いたカポジ肉腫関連ヘルペスウイルスのゲノムの不安定化

演者：山中 崇裕、渡部 匡史、賀川 裕貴
藤室 雅弘

受賞者：病態生化学分野 6年次生 竹腰 良輔

演題：メタロミクス解析によるダウン症モデルマウス脳での網羅的元素分析

演者：竹腰 良輔¹、上田 咲紀¹、河下 映里¹
左合 治彦²、山川 和弘³、秋葉 聡¹
石原 慶一¹

(¹京都薬科大学、²国立成育医療研究センター

³理化学研究所 脳科学総合研究センター)

受賞者：薬剤学分野 6年次生 辻村 真里

演題：ヘルペスウイルス由来チミジンキナーゼを利用した生体内におけるインスリン放出性細胞株の細胞増殖制御法の確立

演者：辻村 真里¹、草森 浩輔¹、西川 元也²
勝見 英正¹、坂根 稔康¹、山本 昌¹

(¹京都薬科大学、²京都大学大学院薬学研究科)

受賞者：衛生化学分野 5年次生 山本 敦子

演題：ラット味蕾におけるATP分解酵素ENPPアイソフォームの発現局在解析

演者：山本 敦子、西田 健太郎、久保田 晃代
松本 沙希、土居 明日香、渡部 邑
大石 晃弘、長澤 一樹

受賞者：公衆衛生学分野 5年次生 尾竹 茉莉奈

演題：発酵玄米(FBRA)の*in vitro*および*in vivo*での抗遺伝毒性効果

演者：尾竹 茉莉奈¹、蟹江 静¹、村上 結香¹
長谷井 友尋¹、鹿内 正孝²、小林 博³
岡田 太⁴、渡辺 徹志¹

(¹京都薬科大学、²株式会社玄米発酵

³札幌がんセミナー、⁴鳥取大学)

受賞者：薬品製造学分野 5年次生 松本 卓也

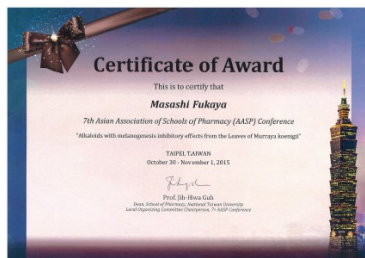
演題：アセトゲニンチオフェン誘導体のTHF環部分の立体化学に関する構造活性相関研究

演者：松本 卓也¹、小島 直人¹、大槻 一文²
岩崎 宏樹¹、山下 正行¹

(¹京都薬科大学、²大阪大学大学院薬学研究科)

■ 7th Asian Association of School of Pharmacy (AASP) Conferenceにおいてポスター賞を受賞

10月31日(土)、11月1日(日)に台湾 GIS NTU CONVENTION CENTERで開催された「7th Asian Association of School of Pharmacy (AASP) Conference」において生薬学分野の大学院博士課程1年次生の深谷 匡さんがポスター賞を受賞しました。



受賞者：生薬学分野 博士課程1年次生 深谷 匡
演 題：Alkaloids with melanogenesis inhibitory effects from the Leaves of *Murraya koenigii*
演 者：深谷 匡¹、中村 誠宏¹、中島 聡一^{1,2}、尾田 好美^{1,2}、吉川 雅之¹、松田 久司¹
(¹京都薬科大学、²エヌ・ティー・エイチ 研)

■ 公衆衛生学分野の研究がBiol. Pharm. Bull. 誌のHighlighted Paperに選出

生命薬科学系公衆衛生学分野の大学院博士後期課程3年次生のSouleymane Coulibalyさんの研究がBiol. Pharm. Bull. 誌(2015年9月号)のHighlighted Paperに選ばれました。

本研究は福岡県太宰府市における大気汚染物質の季節変動と、中国大陆からの大気汚染物質の長距離輸送に関する報告です。太宰府市において捕集した大気粉塵中のSO₄²⁻、Pb濃度及び変異原活性が同じ捕集日に高く、後方流跡線解析の結果から、これらの捕集日における気塊の流入は中国大陆を経由したものであることが示唆されました。また、これらの捕集日には、気象庁により黄砂の飛来が認められているものもあり、大気汚染物質が黄砂に伴われて中国大陆から飛来したことを明らかにしました。

News 京薬会だより

<ホームカミングデーの開催>

今年度も母校の大学祭「京薬祭」にあわせて11月1日(日)に第6回ホームカミングデーを開催しました。

今回は日程がオープンキャンパスと重なり、遅いスタートとなりましたが、歓迎セレモニーにおいてはまず西野京薬会会長、武田理事長、影久学生自治会会長の歓迎挨拶があり、引き続き乾学長より挨拶ならびに学長の任期最終年にあたり、任期中のグローバルなファーマシスト・サイエンティスト育成また、ナンバーワンを目指した種々の取り組み、ならびに国家試験の結果、進路状況の紹介など大学の近況について紹介がありました。

講演会では本学臨床薬学教育研究センター教授、高山明先生による「薬剤師を取り巻く諸問題と薬剤師への期待」と題しての講演があり、また、学生で組織するボランティアサークルからも震災被災地や山科地区での活動についての報告があり、参加した卒業生の皆さんから大きな反響がありました。

会場を移して行われた歓迎パーティーでは、受付時に参加者にお配りしたチケットを使って学生の出張販売を購入したり、また、模擬店に繰り出したりと、卒業生同志また、卒業生と在学生の交歓が随所に見られ、非常に和やかな会となりました。なお、お配りしたチケットは各クラブ、サークルに現金と

して還元し、活動の援助を行っております。

このように年々盛会となっており、今回は参加者が100名を超えました。

また、この会にあわせて京都支部総会も開催され、ミニ同窓会を開催したり、同期の仲間で誘い合わせて参加し、歓談したり、といった光景もあり、このような形でもこの会を利用していただけられたと思います。次回もまた新しい企画を用意し、11月初旬の京薬祭に合わせて開催しますので、お誘いあわせの上母校にお越しください。卒業生の皆さんの多数の参加をお待ちしています。

<京薬祭への協賛ならびに優秀クラブ表彰>

今年度も11月1日・2日の両日、京薬会協賛の「京薬祭」が“新たなピースを加えて”をテーマに学生はもちろんのこと、子供たちも楽しめる企画など盛りだくさんの企画で開催されました。

中庭のプラクティテラス特設ステージの催し、ステージ前の中庭での模擬店と夜遅くまでにぎわいました。

京薬祭の2日目には、恒例の京薬会によるクラブ表彰が行われました。今回は優秀クラブとして剣道部、バスケットボール部、マンドリン部が選ばれ、副賞を添えて表彰しました。

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2015年9月～2015年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

石田 成弘(昭17)	渋谷 禎彦(昭35)	竹澤 豪氣(昭43)	三上 正(昭52)
石黒 道彦(昭19)	鎌倉 嘉男(昭36)	都築 澄子(昭43)	森 一二美(昭52)
佐山 福繁(昭24)	嶋田 義彦(昭37)	古本 靖弘(昭43)	高美 美鶴(昭56)
宇本 芳樹(昭28)	福田芙美子(昭37)	古本 良子(昭43)	松本 憲和(昭56)
安藤 寛治(昭29)	松山 牧子(昭37)	吉田 高子(昭43)	下原 浩一(昭57)
滝野 哲(昭29)	向井 英夫(昭37)	高越 清昭(昭44)	串田 ゆか(昭63)
藤沢平八郎(昭30)	本岡美智子(昭37)	稲垣 美幸(昭45)	山下 和紀(平08)
永浜 淳子(昭31)	越智 碩夫(昭42)	武田 忍(昭45)	肥田木貴嗣(平14)
湯浅 総司(昭32)	谷口 睦子(昭42)	佐藤 敏行(昭47)	平良 勇祐(平24)
岡崎 明生(昭34)	山口 博行(昭42)	井岡 万純(昭49)	吉田奈緒美(平26)

＜京薬四一会卒業50周年記念募金（昭和41年卒業生）（五十音順）＞

頭谷 昭久	尾崎美代子	杉浦 純子	前田たけし
栗屋 明彦	小田切雅子	寺坂哲太郎	榊田千佳子
伊倉 義隆	小野田昌昭	寺田 寿子	森 新
石井 美江	加藤 恵三	平岡 勝行	森 道子
伊藤 悦子	加藤美保子	深谷 勝英	横山 照由
遠藤 妙子	金澤 和子	藤岡 靖弘	吉川 尚子
岡 義子	近藤 吟子	藤本 貞毅	
尾崎 将文	近藤 晃	堀 裕	

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

乾 賢一(学 長)	大原 松雄(理 事)	武田 禮二(理事長)	村山猪一郎(監 事)
上西 潤一(教 授)	高美 時郎(評議員)	村田 保(講 師)	

(2015年11月30日現在)



KPUnews No. 184

2016年1月発行／編集：KPUnews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。